

路上ライブを行う自治体事例

事例 1：アーティストに許可証を発行し、指定場所でパフォーマンスを許可 東京都が審査会に合格したアーティストに公共施設や民間施設などを活動場所として提供し、都民が気軽に文化芸術に触れる機会を提供	
項目	概要
事業・団体名称	東京都 ヘブンアーティスト 運営主体：東京都生活文化局
事業概要	▶2002年に都知事の元、ロンドンのなどの先行事例を参考に創設。 ▶目的は市民が身近に文化に触れる機会の提供と若手アーティストの育成。 ▶登録アーティストは、パフォーマンス部門 386 組、音楽部門 99 組（2024 年 9 月現在）。公式サイトで五十音順とジャンル別で検索できる。 ▶活動場所は 55 施設 74 カ所（2024 年 9 月現在）あり、事前予約が必要。主な活動場所として、上野恩賜公園、葛西臨海公園、お台場海浜公園、渋谷キャスト大階段、砧公園、東京芸術劇場前、光が丘公園、木場公園、小金井公園、飯田橋セントラルプラザ区境ホール、代々木公園、サザンスカイトワー八王子、府中の森公園、多摩動物公園駅前広場などがある。 ※町田市内では、ぼっぽ町田、町田ターミナルプラザ、シバヒロ、薬師池公園四季彩の杜薬師池がある。 ▶審査会は年 1 回実施され、応募資格は住所、年齢、国籍（外国人は在留資格を有する者）、ジャンルを問わない。書類/映像と実演の 2 段階審査。審査の合格率は 10～15%前後。審査員はアーティストなど文化芸術専門家。 ※2024 年は第 24 回ヘブンアーティスト募集に応募のあった 142 組のうち、第一次審査を通過した 39 組が、上野恩賜公園内の東京文化会館 キャンピードの公開審査会に参加した。 ▶許可証発行は無料。許可証有効期限は 1 年間。その間に一度も活動がない場合は失効。 ▶禁止事項：CD などの販売、大音量での演奏、宗教的political的色彩を有するパフォーマンス ▶2011 年より、災害被災地にアーティスト派遣するなど支援事業を実施。 ▶年に一回、登録アーティストが上野恩賜公園に一堂に会して行う「ヘブンアーティスト TOKYO」を開催。2023 年は 3 日間で、約 130 組が登場した。
政策上の位置付け	東京都文化振興指針（2005 年）の基本目的 1 に、「世界が魅力を感じる都市・東京」の「アーティストに公共空間を開放」する取組にヘブンアーティスト事業を位置付けている。また東京文化ビジョン（2015 年）の文化戦略 6「教育、福祉、地域振興等、社会や都市の課題に、芸術文化の力を活用」に同事業を位置付けている。

事例 2：ミュージシャンに許可証を発行し、JR 柏駅東口ダブルデッキ上で演奏を許可

「音楽の街」としてのイメージアップとともに、ストリートミュージシャンのマナー啓発・治安維持・街の活性化を図る

項目	概要
事業・団体名称	柏市 ストリートミュージシャン登録制度 運営主体： ストリートプレーカーズ（市民団体） 問い合わせ・パトロール担当は柏市中心市街地整備課
事業概要	▶ 2005 年に創設。1990 年代に柏を中心に活動したサムシングエルズが大ヒット。2000 年代にはナオト・インティライミも柏で路上ライブを行うなど全国区のミュージシャンが誕生し、路上ライブの聖地となった。市を訪れるストリートミュージシャンが増加し、苦情の増加を発端に登録制度が制定された。この経緯のため音楽以外のパフォーマンスは対象に含まれない。 ▶ 目的は①ストリートミュージシャンのマナー遵守による治安の維持、②音楽の街のイメージアップや活性化。 ▶ 登録ミュージシャンの登録ナンバーは現在 2600 番超。 ▶ 通称「柏ルール」により、登録制、アンプの使用禁止、指定区画のみ演奏可能、活動時間厳守などを定めている。 ▶ 許可証発行料は 540 円。有効期間 1 年。許可申請者に対し審査を行わない代わりにマナー遵守を要求している。 ▶ 活動場所は予約制でないため、ミュージシャン同士の譲り合いの習慣やコミュニケーションが生まれている。 ▶ 「柏ルールオリジナルグッズ」として T シャツやラバーバンドを販売。収益でライブ開催を計画している。
政策上の位置付け	▶ 柏市中心市街地活性化基本計画（2008 年）、第 2 期柏市中心市街地活性化基本計画（2014 年）に、柏駅周辺活性化イベント事業の一環としてストリートミュージシャン登録制度を位置付け。 ▶ 柏市第 5 次総合計画(2016 年)に、「地域のちから」分野「誇りの持てる文化の醸成」施策の「柏らしい文化活動の発展」取組に「音楽の街かしわの創出」事業が位置付け。

事例 3：手づくりアート作品&パフォーマンスの出展を年間登録制で認める

「公園を核とした賑わい創出」を主な目的に、「手づくり文化の発信」「公園利用のマナーアップ」など公園管理の適正化と活性化を図る

項目	概要
事業・団体名称	井の頭公園アートマーケット 主催：東京都西部公園緑地事務所 運営：井の頭公園アートマーケット運営委員会（事務局：東京都西武公園緑地事務所）
事業概要	▶「公園を核とした賑わい創出」を目的に、「手づくり文化の発信」「公園利用のマナーアップ」など公園管理の適正化と活性化を図る。 ▶2006 年、都立井の頭恩賜公園の開園 100 周年記念事業の一環として開始。公園内は以前から週末は大道芸や露天などで賑わい、自由参加が認められていたが、出展数の増加とともに混乱を招いたため、より健全で公平な活性化を図るため登録制が導入された。 ▶運営委員会のメンバーは東京都、武蔵野市、三鷹市、一般社団法人武蔵野市観光機構、特定営利活動法人みたか都市観光協会。 ▶アートマーケットの開催日時は土日祝日の 9 時から 17 時。 ▶アートキャストは手作り作品を展示販売する「アート部門」と、大道芸やパントマイム、楽器演奏などをする「パフォーマンス部門」の 2 部門からなる。登録者数は部門別に上限を定めており、定員に達していない場合は公募を行う。 ▶募集は年 1 回。運営委員会の審査を経て、登録料 1 万 2 千円を収めると登録者となる。 ▶全登録者は「井の頭公園アートキャスト連絡協議会」会員となり、キャスト自らが役員を選出し、運営委員会と連携して自主活動を行う。（開催時に出展者を確認して事務局へ報告、出展ルール見直し提案、キャスト間の交流・意見交換促進など） ▶事業普及のため年に一度、秋に「井の頭感謝祭」を開催。2024 年は「チャレンジ出展」として、登録者以外の 1 日限りの出展も募集している。
政策上の位置付け	▶東京都の直轄公園である井の頭公園は 2017 年に 100 周年を迎えた際に、東京都西部公園緑地事務所が地元自治体や商工団体等と連携し、「井の頭恩賜公園 100 年実行委員会」を立ち上げ、井の頭池の水質浄化等を担う「水と緑部会」及び公園から発信して文化を創造する「賑わい部会」、100 周年イベントを演出する「100 祭部会」が発足。この「賑わい部会」において、「井の頭公園アートマーケット」や「ネイチャー☆プログラム」、「野外劇フェスタ」など、多彩な事業を実施。 ▶アートマーケットは 2018 年に事業終了を予定していたが、存続を希望する声が地元や登録者からあがり、武蔵野市、三鷹市などの協力を得て東京都西部公園緑地事務所が事務局となり「井の頭公園アートマーケット運営委員会」を設立。2019 年 9 月から新体制で再スタートした。

事例 4：教育委員会が設置し、商店街活性化と音楽家支援を目指す

駅前や商店街などの「まちかど」をステージに

項目	概要
事業・団体名称	船橋市公認ライブ「まちかど音楽ステージ」 設置：船橋市教育委員会 実施：ふなばし音楽フェスティバル実行委員会
事業概要	▶ 2014 年度開始。 ▶ 「演奏活動を行う者の健全な活動の誘導を図り、もって音楽文化の向上と地域の活性化に寄与する」ことを目的とする。 ▶ 開催日：5 月から 12 月にかけての第 2・第 4 金曜日（祝日及び年末年始を除く） ▶ 時間：午後 6 時～午後 8 時 30 分（30 分×5 ステージ） ▶ 会場：京成船橋駅と船橋フェイスビルの連絡デッキ。各種イベント等への派遣も行う。 ▶ 上手い下手は問わず、オーディションはなし。保護者の同意があれば小学生も参加できる。代表者の平均年齢は 47 歳。利用登録数は 147 組（市内 39%）* ▶ 利用希望者は申請書類を提出し、実行委員会が内容確認後、登録書を発行する。歌唱と演奏以外のダンスや大道芸は対象外。 ▶ 会場は要予約。予約が重なった場合は抽選。同じ団体・個人の予約可能回数は月に 1 回。 ▶ 最小限のポータブルアンプは許可（電池または充電式）。ただし大音量は禁止。 ▶ 季節に合わせた企画ステージも開催している。各企画ステージの出演者は、その都度登録者の中から募集する。
政策上の位置付け	▶ 船橋市は、以前より市民による音楽活動（クラシック系）が盛んな風土があり、小中高等学校での吹奏楽・管弦楽の活動も全国レベルであった。2013 年度の松戸徹市長の公約「音楽によるまちの活性化」の取組の 1 つとして新事業の企画が始まり、まちかど音楽ステージ事業が 2014 年度に開始。*

* 2023.3.29 立川文化芸術振興議員連盟の高口やすひこ氏視察記事による

<https://ameblo.jp/y-takaguchi/entry-12795467742.html>

事例 5：合法ストリートライブで、若者の集まるまちを目指す

演奏力に加えて SNS 等の発信力も重視し、まちの魅力 PR を図る

項目	概要
事業・団体名称	すみだライブストリート 主催：一般社団法人ピースライブ、「隅田川森羅万象墨に夢」実行委員会 共催：墨田区、公益財団法人墨田区文化振興財団
事業概要	▶ 錦糸町駅 3 分のサテライトスタジオ「錦糸町放送局」で「すみだライブオフィシャル TV 番組」を放送。また、abema Fresh!, showroom, YoutubeLive などリアルタイム配信も行う。優秀者は区内の屋外スペシャルイベントへの招待もある。 ▶ すみだライブ公認錦糸町アイドルオーディションを開催。運営団体である一般社団法人ピースライブに関連するレコード会社・有限会社ローノーツが合格採用者のデビュー、活動支援を行う。 ▶ 審査は無料。オーディション合格者は出演システム利用料として一ヶ月あたり 216 円を支払う。

事例 6 : 365 日いつでも「わくわくドキドキ」を感じるまちづくり
市民の文化芸術参加促進とシティプロモーション推進を図る。

項目	概要
事業・団体名称	まちは劇場 まち劇スポット事業 主催：静岡市観光交流文化局まちは劇場推進課
事業概要	▶目標は、「市に根付いた大道芸や演劇、音楽などの芸術文化の持つ創造性を活かし、誰もが気軽に楽しむことができる仕掛けづくりを通じて、市民の芸術文化等の創造活動への参加や活動を促すことで、市民が主役のまちづくりを進め、シビックプライドの醸成及び交流人口の増加による地域経済の活性化を図る」としている。 * 静岡市は 1992 年から『大道芸ワールドカップ in 静岡』を開催しており、例年 150 万人以上が訪れる。 ▶「まちは劇場」の国内外に向けたプロモーションが 2019 年から始まり、大道芸ワールドカップなど、国内外から多くの人々が訪れる大規模イベントをはじめ、静岡市内のあらゆる場所で大小様々な催しを推進することで、静岡市のプレゼンスを高めている。 ▶まち劇スポット事業では、静岡市の審査に合格してライセンスを交付されたアーティストが通称「まち劇パフォーマー」となり、市が指定したストリートや公園等でパフォーマンスや音楽活動を行うことができる。審査は年 1 回、1 次は書類審査、2 次は実技。 ▶ライセンスには個人ライセンス（1～5 名程度のグループ向け）と団体ライセンス（教室やサークル、部活など向け）の 2 種類がある。 ▶市内に設けられた『まちは劇場パフォーマンススポット』（通称：まち劇スポット）は、静岡駅北口地下広場、札ノ辻交差点をはじめ商店街や公園、動物園、埠頭など、個人向けが 11 箇所、団体向けが 8 箇所ある。このほかストリートピアノは 3 箇所ある。 ▶2024 年 9 月現在公式ウェブサイトの一覧リストに掲載された登録パフォーマー数は 37 組。ジャンルは大道芸、マジック、音楽、ダンス、その他がある。 ▶公式サイトでパフォーマーのインタビュー記事や、「まち劇キャスト」として、パフォーマーではないがまちで文化役割を担う市民の紹介を掲載している。
政策上の位置付け	静岡市第 3 次総合計画において、重点プロジェクト「文化都市」（3）創造性豊かな静岡文化の進化（まちは劇場・オクシズ）に位置付け。第 4 次総合計画の 5 大重点政策のひとつ「アートとスポーツがあふれるまちの推進」の中に、分野別政策では「文化・スポーツ」「観光・交流」に位置付け。 ▶「まち劇スポット事業」活動状況（R4 政策施策外部評価委員会資料より） 主な活動内容 ①まちは劇場パフォーマンススポットの設置 ②まちは劇場パフォーマーの承認 ③まちかどピアノの設置 予算額 令和 1 年 3,100 千円 令和 2 年 1,278 千円 令和 3 年 1,252 千円 令和 4 年 1,324 千円

事例 7：登録アーティストの活躍を支援するイベント型補助金も導入
専用アプリを通じて出演情報の確認や、会場予約ができる。

項目	概要
事業・団体名称	KOBE まちなかパフォーマンス 主催：神戸市文化スポーツ局文化交流課
事業概要	▶2024 年 4 月開始。 ▶目的はアーティストの新たな活動機会の創出や、市民が文化芸術やエンターテインメントに気軽に触れられる機会の創出、まちの魅力向上。 ▶神戸市の審査に合格した登録アーティストは、公認会場を専用のシステムを通じて予約でき、音楽演奏やパフォーマンスを行うことができる。 ▶公認会場は三宮エリアに 5 箇所、地下鉄沿線エリアに 4 箇所あり（2024 年 9 月現在）、随時新規会場の募集を行っている。 ▶第一期登録アーティストは 49 組（音楽 40 組、ダンス 4 組、大道芸 4 組、伝統芸能 1 組）。 ▶審査内容は、①神戸のまちのイメージとの合致、②クオリティ、③独自性、④柔軟性・社会性。 ▶音楽、ダンス、大道芸、演劇、伝統芸能、ライブアート等、分野問わず。応募資格は 16 歳以上。 ▶全国から応募 204 組、一次審査（動画）50 組、二次審査（公開オーディション）合格者 49 組。ライセンス有効期間は 1 年。 ▶神戸電子専門学校が学生チームが開発した、登録アーティストと繋がる SNS アプリ「Street」を利用。ライブ予定や近隣でのライブのチェック、投げ銭などの応援が行える。 ▶登録アーティストの更なる活躍の機会を創出するため、イベント型の補助制度を創設。1 回のイベントにつき最大 50 万円を補助する。補助対象は 2 日以上、三宮周辺のまち中で開催する、登録アーティストを 5 組以上起用するなどの要件がある。2024 年度前期は夏祭りや音楽祭 3 企画が採択され、現在後期の企画も募っている。 ▶神戸市は公認会場の新規開拓や登録アーティストの積極的な起用などについて、「Busk in KOBE（ストリートミュージシャン応援プロジェクト）」「神戸周遊フェス」の 2 団体とパートナーシップを結んでいる。

事例 8：地元商店街とライブハウスが一体となって盛り上げる地域密着の音楽祭

“異世代共存響声”をテーマに、下北沢周辺の各会場で多様な音楽ライブを行う

項目	概要
事業・団体名称	下北沢音楽祭 主催：下北沢音楽祭実行委員会 後援：世田谷区 / 下北沢商店連合会（下北沢一番街商店街振興組合・下北沢南口商店街振興組合・しもきた商店街振興組合・下北沢東会） / 財団法人 世田谷区産業振興公社
事業概要	▶「異世代共存響声」をテーマに、子どもからお年寄りまでが世代を超え、下北沢に関わるすべての方々が音楽を通じて改めてこの街を感じあい、絆を結び合えるイベント ▶もともと下北沢はライブハウスが多く、劇場も 1980 年代前半ぐらいからでき始めていた。1991 年に北沢タウンホール（区民会館）開館を機に、地元の商店会・町会が中心になり、地元のライブハウスが協力。「ふだん聴けない音楽を区民に」をテーマに「ワールドミュージックフェスティバル イン 下北沢」が実現。翌年名称が「北沢音楽祭」に変わり、98 年まで同テーマで開催された。 ▶98 年の第 8 回に、地元のライブハウスとの協調イベント「ライブハウスの日の成功をきっかけに、2000 年代にかけて多くの地元ライブハウスが音楽祭に参加・協力するイベントに発展。フジ子ヘミング、金子マリなど地元在住のミュージシャンをはじめ忌野清志郎も二度参加。ブラスバンドのパレード演奏も始まり恒例となる。 ▶2009 年から名称が「下北沢音楽祭」となり、野外フリーライブを多数の会場で実施。「異世代共存響声」をテーマに、公募とライブハウス推薦アーティストが出演しフリーマーケットもある「フラフラ下北沢」やタウンホールでの「ヨナヨナ下北沢」などが定着。 ▶開催は毎年 7 月の七夕前後の 4 日間。

事例 9：大規模音楽フェスと連携し、街なかに 30 か所超のステージを一斉展開
 横浜を「音楽のまち」としてブランディングしていくため、民間と連携

項目	概要
事業・団体名称	Live！横浜 2024 <未開催> 主催：横浜アーツフェスティバル実行委員会 共催：横浜市（にぎわいスポーツ文化局にぎわい創出戦略課）、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
事業概要	▶横浜市は都心臨海部に集積する音楽施設や民間イベントと共に、音楽を中心としたライブエンターテインメントのフェスティバル『Live！横浜』を新たに立ち上げ、この 11 月に初開催する。 【会期】2024 年 11 月 9 日(土)、10 日(日)、16 日(土)、17 日(日) 【会場】みなとみらい 2.1 地区を中心とした都心臨海部 【ジャンル】音楽を中心としたライブエンターテインメント ▶みなとみらい地区の 30 を超えるオープンスペースを設置。さらに 8 箇所の「街なかステージ」を設置。 ▶様々なジャンルのアーティストが、みなとみらい 2.1 地区内の商業施設、ホテル、公共空間等で年間通じてライブパフォーマンスを実施する「みなとみらい STREET MUSIC」（主催：一般社団法人横浜みなとみらい 2.1）と連携し、多種多様なステージを展開。 ▶子どもたちがプロのアーティストから指導を受けられるワークショップやプロと共演するステージなど子ども向けの体験プログラムを実施。 ▶音楽・ダンスを通じて横浜を盛り上げる出演者を一般募集。募集人数は約 130 組 1000 人を想定。web エントリーフォームにて申し込み、応募者多数の場合は選定により決定。横浜市民優先枠あり。 ▶「PIA MUSIC COMPLEX 2024」と「Local Green Festival'24」のサテライトステージ（観覧無料）を公共空間・オープンスペースへ展開し、大規模音楽フェスの盛り上がりをも街なかにも波及させる。 ▶同時期に開催される民間連携イベントは、全日本高等学校吹奏楽大会、神奈川フィルハーモニー管弦楽団 定期演奏会、横浜 JAZZ PROMENADE 連携、大規模アール・ヌーヴォーイベント、日本高校ダンス部選手権連携など約 30 件が予定されている。